

# 第49回日本医学教育学会大会に 本会の若手医師ワーキンググループから2名が参加

- 2017年8月18日(金)・19日(土)
- 札幌コンベンションセンター

「第49回日本医学教育学会大会」に、京都府医師会から若手医師ワーキンググループの堀田祐馬先生、武部弘太郎先生が出席し、ポスター発表を行いました。

研修医の研修医による研修医のための研修会「北部研修医ネットワーク」の取り組み、並びに指導方法に屋根瓦方式(先輩医師が後輩医師を指導する)を採用している「臨床研修屋根瓦塾KYOTO」について、各々の目的や実情、課題等が盛り込まれており、タスクフォースとして運営に携わる若手の先生方の積極的な活動のもと、京都府医師会が行う先進的な研修医事業が提供されていることが示されました。



ポスター発表をする  
堀田祐馬先生、  
武部弘太郎先生



武部先生

京都府医師会では、研修医の先生方を対象として定期的にイベントを開催しています。先生方のご参加を心よりお待ちしております。

## 京都府医師会・日本医師会の会費が下がります！

医籍登録10年以内のB1会員(勤務医)の会費が変わります！ 京都府医師会では、平成30年度から、**医籍登録10年以内の勤務医の会費をこれまでの年額38,400円から年額8,400円に減額**します。  
さらに、日本医師会の会費も変更となっています。医師賠償責任保険加入区分の会費が減額となりますので、未加入の先生は、この機会に是非ともご入会ください。よろしくお祈りいたします。

### 日本医師会会費賦課徴収額の改正

【平成30年4月1日から】  
＜改正点＞

- (1) A②(B)、A②(C)会員の医師賠償責任保険(以下、医賠責保険)料の引き下げに伴う会費額の引き下げ
- (2) 若手勤務医と研修医のサポートとして、30歳以下のA②(B)及びA②(C)会員の会費額の引き下げ

現行	平成30年度～
日医会費賦課徴収額	日医会費賦課徴収額
A②(B)会員 年額: 82,000円	A②(B)会員 31歳以上 年額: 68,000円 A②(B)会員 30歳以下 年額: 39,000円
A②(C)会員 年額: 33,000円 ※1	A②(C)会員 年額: 15,000円 ※1
B 会員 年額: 28,000円	B 会員 年額: 28,000円
C 会員 年額: 無料 ※1	C 会員 年額: 無料 ※1

※1会費減免適用後の額(手続きについては、京都府医師会で一括申請いたします)

【日本医師会会員区分】(概略)

A②(B)会員	日本医師会医賠責保険に加入の勤務医
A②(C)会員	日本医師会医賠責保険に加入の初期研修医
B 会員	日本医師会医賠責保険に加入していない勤務医
C 会員	日本医師会医賠責保険に加入していない初期研修医

京都府医師会事務局では、先生方の「何か」あったときに、「不安にさせない」「負担をかけない」きめ細かい対応を心がけています！  
医賠責保険のことで、少しでも気になることがあれば、何でも、気軽にご相談ください！

## 京都府医師会研修医向けイベントスケジュール

### 平成30年度 臨床研修屋根瓦塾 KYOTO

と き：平成30年7月28日(土) 午後2時～7時(予定) ※懇親会含む  
と ころ：京都府医師会館  
参加費：無料  
プログラム(予定)：■ロールプレイ ■シミュレーションゲーム  
■懇親会/メディカルクイズ  
対 象：1・2年目の研修医

【お申し込み・お問い合わせ】  
下記連絡先もしくはメールにて気軽にご連絡ください！  
京都府医師会 学術生涯研修課  
メール：gakujuutu@kyoto.med.or.jp

京都府医師会では本誌の定期的な発行を予定しており、次号は4月に発行致します。  
掲載内容向上のために、本誌に関するご意見・ご要望をお寄せください！  
また、研修医・編集委員を募集しています。  
編集に携わってみたい先生がおられましたら、事務局までご連絡ください。



《Arzt》:ドイツ語で「医者」を意味する言葉から本誌のタイトルを取りました。



一般社団法人 京都府医師会  
〒604-8585 京都市中京区西ノ京東梅尾町6  
TEL.075-354-6104 FAX.075-354-6074  
http://www.kyoto.med.or.jp/



# Arzt

研修医・若手医師のための情報誌『Arzt』 VOL.03



## 研修医REAL INTERVIEW

何もできなくて当たり前。  
日々、リアルな現場を学びたい。

## EVENT REPORT

「平成29年度 臨床研修屋根瓦塾KYOTO」を開催

### 何もできなくて当たり前。 日々、リアルな現場を学びたい。

初期研修の1年目。まさしく、医師として歩み始めたばかりの1年生。迷いや失敗は数え切れないけれど、日々勉強!! という、京都市立病院の研修医・岩垣沙樹先生にお話を聞きました。

#### ここでしかできない貴重な経験も

実家は京都の長岡京市で、高校は大阪です。研修先は京都・大阪で、小児科と内科が充実している病院でと考えていました。京都市立病院を選んだ決め手は、病院を見学したときの対応がすごく丁寧だったこと、女性の先生が多そうという印象でしょうか。医師もスタッフも含めて皆さんの丁寧な対応という印象は、研修医として働き始めても変わらないですね。ここは関西でも数少ない輸入感染症に対応できる病院なんです。その感染症内科で研修していたとき、マラリアの患者さんが入院されていました。診断から治療、回復して退院されるまで、一連の流れを経験できたのは、ここでしかできない貴重なことだったと思います。

#### 同期からも、学ぶことは多い

入って2カ月が過ぎた頃に始まった救急の当直はしんどかったです。治療の方針を決めるところまで研修医にさせてもらえる環境なのですが、救急車の対応とか、最初はすごく大変でした。今もなかなか慣れません。そして失敗も、本当にたくさん。いっぱいありすぎて挙げるとキリがないぐらい。上級医の先生に指導していただいて、日々が成り立っているようなものです。同期と定期的にごはんを食べに行き、「こういう症例を診たよ」と報告しあったり、失敗談も吐き出してしまいます。同期は12人。多すぎず少なすぎない人数で、きっと仲はいいと思います。他の病院を知らないのと比べられません。

#### 今だからできることは、やっておく

まだ研修医1年目。何も経験がなく、何もできないのが今の状態だと思うので、自分ができることは積極的にやっていきたいなとは思っています。できているかどうかはわかりませんが。たとえば違う科の先生に「穿刺してみる？」と声をかけていただいたら、必ず行くようにしています。経験しないと学べないことは多いです、研修医だからこそ上級医の先生が手取り足取り教えてくださるわけですから、できるときに、できることはやっておこうと思っています。将来的には小児科か内科と考えているのですが、各科を研修で回っていると、面白いというかいいなと思うことに、それぞれの科で出会ってしまいます。初期研修が終わる頃、きっと悩むんだろうな(笑)。



岩垣 沙樹 先生  
Saki Iwagaki

徳島大学医学部卒業。小学3年生の終わりに帰国するまで約4年間をアメリカで過ごす。アメリカでも実家のある長岡京市でも、子ども時代は外で遊んでばかりの毎日だったそう。患者さんや他の医療スタッフから声をかけてもらいやすい、そんな医師をめざしたい。



#### 岩垣先生のとある一週間 感染症内科での一週間。月曜から金曜までフル回転!

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
<b>A M</b>	細菌検査 担当患者さんの 診察・検査	細菌検査 外来見学	細菌検査 入院患者さんの 診察	細菌検査 部長回診	細菌検査
<b>P M</b>	病棟 カンファレンス	ICTラウンド 当直	—	外来見学	ICTラウンド

**岩垣先生のちょっとしたいい話**

日本に10年住んでいるというフィリピン人の患者さん。母語でないとなかなか医師に思いを伝えられないことに気づいて、英語で話すようにしました。退院の時に「英語で話せてうれしかったよ」と言ってもらえて、私もとてもうれしかったです。

### 「平成29年度 臨床研修屋根瓦塾KYOTO」を開催

● 7月1日(土) ● 京都府医師会館

京都府医師会では、「京都府全体で次代の良医を育てる」という理念のもと、さまざまな研修医向けイベントを開催しています。その一環として平成26年度から行っているのが「臨床研修屋根瓦塾KYOTO」。先輩医師から後輩医師へ、自分たちが学び経験したことを教え伝えていく、その繰り返しが屋根瓦のようであることから名付けられたものです。50数名が参加した今回の研修会では、ロールプレイのほか、京都の若手医師が作成した複数の症例シナリオや器材を用いたハンズオンレクチャーに異なる施設の臨床研修医とチームを組んでチャレンジするシミュレーションゲームなど、多彩なプログラムを用意。イベント後の懇親会でも、チームで挑むクイズ大会を実施しました。冒頭のあいさつで松井道宣・京都府医師会会長が述べたように、研修医の皆さんには、「新しい知識、新しい技術、そして友情」を持って帰ってもらおう場となったようです。

#### プログラム

- 1. ロールプレイ**  
屋根瓦塾塾長である小山弘先生(京都医療センター)の司会のもと、受講生たちが医師役、患者役、観察者役となってロールプレイ。用意されたシナリオに沿って医療面接を行うというもので、会全体のアイスブレイクも兼ねた。
- 2. シミュレーションゲーム**  
提示された症例に沿って座学で学習するシナリオブースと、器材や患者シミュレーション人形を用いて学ぶスキルブースに分かれ、それぞれチームで挑んだ。
- 3. 懇親会/クイズ大会**  
指導医も加わって、病院やチームの枠を超えて交流。クイズ大会も行われ、盛り上がるひとときとなった。

#### 参加者の声

- ◆他の人がどのように対応しているかや、自分の抜けを知る事ができた。
- ◆研修医同士のため意見が言いやすく、アドバイスもしやすかったので非常に良かった。
- ◆貧血、血小板減少といったテーマからいろいろな鑑別診断をあげていくプロセスが実践的でよかった。
- ◆どのブースもわかりやすく明日使える知識だった。
- ◆指導を受けながらその場でfeed backが得られ、手技を何度もやらせてもらえた。
- ◆CVCは、見たことしかなかったもので、イメージができるようになった。
- ◆機会、場所をもうけて勉強、実践するチャンスはなかなかないと思うし、他の病院の研修医の先生方と話せる機会があったからよかったです。よい刺激になりました。
- ◆研修医になってから、時間をとって教えてもらうことは少なく、勉強になった。

